

MND-SE管内の状況



バスラ日誌 (5月30日)

- 1 5月22日に衛星通信システムがダウンしてから8日間、英軍回線 [REDACTED] 及びインマルによる自衛隊クローズ系メールのみで対応してきた。不便ではあったが、最終局面の予行訓練を兼ねて実施した。この間、不測事態に即応するため、部隊移動時には [REDACTED] し、連絡班内の交信のために [REDACTED] した。心配した第10次群との部隊交代も無事終了して安心していましたが、通信班の移動の目途が立たず、今日まで同様の状態が続いていた。昨日夕、0120(深夜)に「空(エンブティ)のヘリ」が、スミッティから飛ぶ予定があるけれども使うかと聞かれた。通信班の移動について、ヘリを申請しては、断られていたところだったので、担当者も何とかしたいという気持ちで言ってくれたのだろう。『もし、こちらに来たとして、31日のヘリは大丈夫ですか?』『あ、帰りのことは考えていなかった・・・』彼も、やったと思って駆けつけてくれたに違いない。「今、もう一度確認するから。」と言って自分の机に戻って行った。結局、深夜便は時間変更されて、本日0635(実際には0650離陸と聞いた。)のヘリで、通信班のバスラへの移動が実現した。システムの交換作業は順調に進み、昼前には自即電話・メールともに復旧し、通常の状態に戻ることができた。業支通信班・第10次群通信小隊の皆さん及び英軍ヘリ関係者の皆さんには感謝している。しかし、帰りの便はまだ決まっていない。31日の便は先程断られた、次は2日を予定しているがいつ帰れるかはわからない。(1日は無飛行日。ヘリ運行状況は、さらに厳しくなっている。)通信班の移動を後回しにしたのは、第9次群のヘリによる部隊移動を優先させていただいたからであるが、必通の信念に燃える通信職種としては、耐え難い状況であったと思う。幸い、いつもはちょくちょく断絶する [REDACTED] はすこぶる調子が良かった。(整備の為のダウンと短時間の故障はあったが)これまで、何度も申し上げてきたが、ヘリ運用は大変厳しい状況である。調整ミーティングにも参加したが、限られたヘリに対して、要求は際限がない。JHFで優先順位に基づいて捌いているが、担当者は皆、頭が痛いといった表情である。これも説明済みであるが、ヘリは計画的に削減されており、撃墜事案も含めて機数自体が減っている。作戦支援は依然多く、トップカバーの為、夜間も頻繁に、飛行している。6月も既に多くの支援依頼をあげている。C-130を利用して、タリル-サマワ間であれば、やや実現の可能性が高いが、C-130のタリル便は、週に2日程度しかない。
- 2 本日快晴。バスラ8名、極めて健康。